

応援団・演武団体紹介

応援団

発団以来、50有余年の歴史と伝統の中に、我が明治大学応援団も幾多の変遷を重ねて来たが、六大学を含め、その他、他大学の追従を許さじと、なお一層の発展を期しているのが現在である。今日、我が応援団は、リーダー部、吹奏楽部、バントワラーズ、との3つに分かれている。総部員数、わずか80数名ながら一つの組織を形成し、有関連の一つとして堂々とその職務を全うし、日夜精進しているのである。活動内容には野球の応援のみならず、駿台祭、和泉祭、生田祭、入学式、卒業式などに参加、支援するも含まれている。すなわち母校の発露たる全面的な応援である。その過程において我々は「一・団則、一・団結、一・剛健、一・自律、一・服従、一・明朗」の5つを心の標としているのである。ともあれ皆一つの共通した終極的な場を求め、日夜努力している姿、それが現在の応援団の姿である。

合気道部

合気道は、「気」に合する道である。「気」とは日常使われる言葉「気が強い」「意気消沈」などの「気」である。合気道では、その気を出す稽古をする。合気道においては、一般のスポーツのように、勝負そのものが目標ではなく修行そのものを重視し、修行を通じて大自然の法則を体得し、その真理に沿う自分自身を完成するためにある。「正勝吾勝」、即ち正しき真理にて勝ち、われに勝つ修業が合気道なのである。

体育会空手部

空手道における攻防の基本である突き蹴り受けは、空手道への入門であるとともに、最終の技術目標でもある。要求されるのは、体の安定と、臨機応変な重心の移動と、力の効果的な運用、すなわち集中的な衝撃力である。身体各部の力が同時に、同方向に、同一目的に協力し働いてこそ強大な破壊力が生じるのであるから、それに必要な筋肉を強くすることが即ち上達である。

同好会空手部

我々同好会員は学生或いは社会人としての民主的ルールに基づき、絶えず心身両面にわたって人間能力の可能性を探究しつつ空手に励んでいます。そして自由に個性を具現した空手を学ぶ事においてのみ共通であるということに武道的集団の意味があるのではないかと思います。この4年間で学ぶ空手は一生に一度使うか使わないか。もし使わないで一生をおくれば幸いです。空手は君子の武道”と言われる故縁もここにあると思います。

“空手は君子の武道”と言われる故縁もここにあると思います。

少林寺拳法同好会

少林寺拳法同好会の発足は昭和35年の12月である。丸10年が過ち、その間毎年発展し、全日本優勝を始め関東大会優勝と経験し、常に関東における学生少林寺拳法のリーダーシップを努めてきた。現在50余名の部員数を保ち春夏の合宿に、又毎日の練習にと部員相互の親睦と人間修養、少林寺拳法の発展などに向けて邁進している。印度から中国へ、そして日本へと伝わる少林寺拳法の歴史は古く、実に4千年を数え、北派禅宗を背景に力愛不二、心身一体の教えに基づく自己修養の道である。我がクラブもこの教義にのっとり規律ある中に和気愛々とした楽しさもあるクラブです。

女子柔道同好会

私達女子柔道同好会も9年目を迎えました。昨年OG会を発足し、今年は新入生を迎え一同増々はりきっています。女子の柔道においては、女子にふさわしい体の運用法、礼節修養法、護身法、それに加え柔道の練習をします。女子柔道・護身術の技を知ることとは目的の一部であってその本質は、技の修練により、女子の胆力を錬り、ことにあたり動ずることなく、落ち着きとともにこれに対処出来る心身の養成にあります。

女子柔道は、講道館初代館長の嘉納治五郎師範が大正15年11月9日講道館女子部を創立されました。以来女子柔道も年々発展し、講道館における女子部だけでなく地方の道場、あるいは学校においても多くの修業者を得るに至っています。今後増々私達と同様女子柔道の修業に励む女性がふえる事を期待しています。とにかく小川町道場での往休みの1時間の練習は実に有意義なものです。

居合道同好会

居合とは何であるかという、2人が対座している時に、相手の害意を、いち早く察し間一髪、刀を抜き相手をたおす必殺剣、これをいう。俗に居合抜きともいう。現在では、人を殺すという事はないので、この目的が多少変わってきた。今日では、居合とは、個を完成するために、日本刀を用いて必身を、鍛練するものであり、刀の操法であるとなっている。我々は居合刀を用いて（真剣は高価）居合の型を行っている。ほんとうに相手を殺す気構で行っている。相手がいないからといって必殺の気持がないなら、おどりになってしまうからである。我々がやっているのは夢想神伝流居合で、初伝、中伝、奥伝と進む。

稽古は毎週土曜日1時～4時半まで御茶の水本校の11号館の40番教室にて、先生の御指導のもと行っております。居合に興味を、お持ちの方は、ぜひ一度おいで下さい。